



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月9日

上場会社名 ロート製薬株式会社 上場取引所 東・大
 コード番号 4527 URL <http://www.rohto.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)吉野 俊昭
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 経営情報本部長 (氏名)藤井 昇 TEL (06) 6758 - 1211
 四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日 配当支払開始予定日 平成22年12月9日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	52,531	0.0	5,350	1.7	5,591	2.6	3,606	16.3
22年3月期第2四半期	52,554	1.7	5,259	17.8	5,450	20.7	3,100	12.7

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第2四半期	30	67	30	54
22年3月期第2四半期	26	36	26	25

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	120,540	74,562	61.3	628 55
22年3月期	120,770	73,672	60.5	621 03

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 73,906百万円 22年3月期 73,023百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期		7 00		7 00	14 00
23年3月期		7 00			
23年3月期(予想)				7 00	14 00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	113,000	0.4	12,000	4.3	12,200	4.5	7,500	3.5	63 78

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P.5「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更に伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

会計基準等の改正に伴う変更 : 有

以外の変更 : 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期2Q	117,907,528株	22年3月期	117,907,528株
23年3月期2Q	325,008株	22年3月期	321,781株
23年3月期2Q	117,584,419株	22年3月期2Q	117,609,807株

期末自己株式数

期中平均株式数（四半期累計）

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】P.4「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(参考) 平成23年3月期の個別業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	74,500	2.2	10,100	0.3	10,600	0.9	6,800	8.9	57 83

(注) 個別業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 有

添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期純利益 (百万円)
平成23年3月期 第2四半期累計期間	52,531	5,350	5,591	3,606
平成22年3月期 第2四半期累計期間	52,554	5,259	5,450	3,100
増減率 (%)	0.0	1.7	2.6	16.3

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策効果やアジア新興国の経済成長を背景に一部の業種で業績に持ち直しの動きが見られるものの、厳しい雇用環境やデフレ状況が依然続いており、さらに米国経済の減速懸念、急激な円高が進むなど景気の先行きに不透明感が強まりました。

このような状況のもと、当社グループは顧客志向の新製品開発やマーケティング活動により新規分野への展開を図るとともに、既存分野におきましても高付加価値の製品を開発し市場の活性化に努めてまいりました。

売上高は、日本におきましては、夏場の猛暑により日焼け止めなど盛夏関連品が好調であったことに加え、消費者の費用対効果を重視する購買行動により「肌研(ハダラボ)」シリーズが好調に推移いたしました。その反面、残暑が厳しかったことにより、リップクリームなど秋冬物商品の出荷が10月以降にずれ込むこととなりました。さらに、前年の新型インフルエンザ特需により関連商品が反動減となり、加えてメタボリック症候群関連市場の成熟により「和漢箋」ブランドも減収となりました。

海外におきましては、為替変動の影響により減収となりました。その結果、売上高は525億3千1百万円(前年同期比0.0%減)となりました。

利益面につきましては、のれん償却の影響が軽減したものの新ブランド育成のために広告費等が増加した結果、営業利益53億5千万円(同1.7%増)、経常利益55億9千1百万円(同2.6%増)となりました。四半期純利益につきましては、投資有価証券の売却益などにより、36億6百万円(同16.3%増)となりました。

		売上高(外部顧客に対する売上高)			
		第2四半期累計期間		増減額 (百万円)	増減率 (%)
		前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)		
報告セグメント	日本	40,155	40,163	8	0.0
	アメリカ	3,261	2,958	303	9.3
	ヨーロッパ	2,070	2,053	16	0.8
	アジア	6,499	6,761	262	4.0
	計	51,986	51,937	49	0.1
	その他	567	594	26	4.7
	合計	52,554	52,531	22	0.0

<日本>

外部顧客への売上高は、前年同期に対して0.0%増の401億6千3百万円となりました。

デフレや急速な円高の影響などにより、先行きの景況感是不透明なまま推移いたしました。また、消費者の生活防衛意識の高まりから消費マインドが冷え込んでおり、厳しい経営環境が続いております。

アイケア関連につきましては、花粉飛散量の減少による花粉症関連品や競争激化が続くコンタクトレンズ関連品が減収となりました。スキンケア関連では、今夏の猛暑が日焼け止めなど盛夏関連品の売上に寄与したことに加え、ビューティ関連も好調でありました。「オバジ」シリーズは減収となったものの「肌研（ハダラボ）」シリーズに「肌研 飲むヒアルロン酸」、敏感肌のためのスキンケアシリーズ「肌研 es（エス）」を新発売したこともあり、ビューティ関連トータルでは大幅な増収となりました。内服関連では、メタボリック症候群関連市場の成熟化に伴う競争激化により、主力の「ロート防風通聖散錠」や「ロート防己黄耆湯錠」が伸び悩み、漢方薬市場の拡大に寄与してきた「和漢箋」シリーズが減収となりました。

セグメント利益につきましては、50億8百万円となりました。

<アメリカ>

外部顧客への売上高は、前年同期に対して9.3%減の29億5千8百万円となりました。

円高の進行に加え、米国での失業率の高止まりと消費の停滞もあり、厳しい経営環境が続いております。目薬につきましては、「Vクール」を中心に堅調でしたが、主力のリップクリーム「ソフトリップス」が減収となりました。

セグメント利益につきましては、売上高が減少したことに加え、新製品発売に伴う販促広告費の増加もあり、のれん償却の影響が軽減したものの、2億5千9百万円の損失となりました。

<ヨーロッパ>

外部顧客への売上高は、円高の影響もあり前年同期に対して0.8%減の20億5千3百万円となりました。

消炎鎮痛剤「ディープヒート」シリーズが堅調に推移しております。イギリスや中央ヨーロッパでは、前年並みにとどまるものの、ロシアや東ヨーロッパ、アフリカで好調でありました。

セグメント利益につきましては、1億8千3百万円となりました。

<アジア>

外部顧客への売上高は、円高の影響があったものの中国を中心に堅調に推移し、前年同期に対して4.0%増の67億6千1百万円となりました。

目薬につきましては、中国において積極的な販促活動を行ったことにより増収となりました。また、主力のスキンケア関連では、日焼け止め「サンプレイ」や「肌研（ハダラボ）」などの新製品発売が増収に寄与いたしました。特に、「肌研（ハダラボ）」につきましては、中国国内で4大都市を中心とした販路の拡大に加え、ASEAN諸国への販売エリア拡大もあり、大幅な増収となりました。

セグメント利益につきましては、積極的な販促活動に加え、百貨店ブランド「エピステーム」の本格展開に伴う費用増もあり、5億5千6百万円となりました。

<その他>

外部顧客への売上高は、前年同期に対して4.7%増の5億9千4百万円となりました。

主力の消炎鎮痛剤は堅調に推移したもののリップクリームなどが伸び悩みました。

セグメント利益につきましては、1千万円となりました。

参考：製品（サービス）別の売上状況

第1四半期連結会計期間より、マネジメントアプローチにより、セグメント情報を開示しております。参考情報として、製品（サービス）別の売上状況を下記のとおり開示します。

	売上高			
	第2四半期累計期間		増減額 (百万円)	増減率 (%)
	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)		
アイケア関連	12,308	11,830	477	3.9
スキンケア関連	30,275	30,922	647	2.1
内服・食品関連	7,660	7,547	113	1.5
その他	2,309	2,230	79	3.4
合計	52,554	52,531	22	0.0

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における資産総額は1,205億4千万円となり、前連結会計年度末より2億3千万円減少しました。これは、有形固定資産が22億7千万円、商品及び製品が20億3千7百万円増加した一方、受取手形及び売掛金が32億7百万円、投資有価証券が23億7千2百万円減少したこと等によるものであります。

負債総額は459億7千8百万円となり、前連結会計年度末より11億1千9百万円減少しました。これは、支払手形及び買掛金が13億6千2百万円、短期借入金が9億7千8百万円増加した一方、流動負債のその他が20億8千万円、固定負債のその他が9億4百万円、長期借入金が5億7千2百万円減少したこと等によるものであります。

また、純資産につきましては745億6千2百万円となり、前連結会計年度末より8億8千9百万円増加しました。これは、その他有価証券評価差額金が13億2千7百万円、為替換算調整勘定が5億9千6百万円減少した一方、利益剰余金が28億1千万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)
平成23年3月期	113,000	12,000	12,200	7,500
平成22年3月期	113,429	12,544	12,770	7,768
増減率(%)	0.4	4.3	4.5	3.5

当第2四半期連結累計期間の業績は、厳しい環境の中、売上高は減収となったものの増益は確保いたしました。

通期の売上高予想につきましては、日本では個人消費の回復が力強さを欠いているものの、来春の花粉飛散量が増加するとの見通しもあり堅調に推移するものと考えております。一方、海外では急激な円高による為替換算による影響に加え、世界的な景気低迷の中、減収を見込んでおります。

利益面につきましても、売上高が伸び悩むことに加え、今後の成長の牽引役と考えております新規事業や新ブランドの育成に注力してまいりますので、通期の連結業績予想を上記のとおり修正いたします。

なお、通期の連結業績予想に用いた為替レートは〔86円＝1USD〕です。

上記の予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

簡便な会計処理

- ・ 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

- ・ 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

会計基準等の改正に伴う変更

- ・ 「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間から「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成20年3月31日 企業会計基準第18号）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 平成20年3月31日 企業会計基準適用指針第21号）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ6百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は36百万円減少しております。

- ・ 表示方法の変更

（四半期連結損益計算書関係）

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成20年12月26日 企業会計基準第22号）に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第2四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

以外の変更

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,565	13,373
受取手形及び売掛金	24,904	28,111
有価証券	5	-
商品及び製品	11,412	9,374
仕掛品	949	936
原材料及び貯蔵品	5,275	4,974
その他	4,774	3,834
貸倒引当金	172	122
流動資産合計	60,713	60,483
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	16,986	16,275
機械装置及び運搬具(純額)	6,430	5,887
その他	14,123	13,106
有形固定資産合計	37,539	35,269
無形固定資産		
のれん	1,247	1,353
その他	1,342	1,449
無形固定資産合計	2,590	2,802
投資その他の資産		
投資有価証券	16,075	18,448
その他	3,691	3,849
貸倒引当金	70	83
投資その他の資産合計	19,696	22,214
固定資産合計	59,826	60,286
資産合計	120,540	120,770
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,047	8,685
短期借入金	4,505	3,527
未払法人税等	2,562	2,601
賞与引当金	1,726	1,732
役員賞与引当金	15	30
返品調整引当金	663	620
売上割戻引当金	2,020	1,788
その他	16,121	18,202
流動負債合計	37,662	37,187

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
固定負債		
長期借入金	4,049	4,621
退職給付引当金	1,583	1,703
役員退職慰労引当金	98	96
その他	2,583	3,488
固定負債合計	8,315	9,910
負債合計	45,978	47,097
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,398	6,398
資本剰余金	5,517	5,517
利益剰余金	63,633	60,822
自己株式	264	261
株主資本合計	75,285	72,478
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,371	4,698
為替換算調整勘定	4,749	4,153
評価・換算差額等合計	1,378	545
新株予約権	593	593
少数株主持分	61	55
純資産合計	74,562	73,672
負債純資産合計	120,540	120,770

(2) 四半期連結損益計算書
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	52,554	52,531
売上原価	22,334	22,278
売上総利益	30,219	30,252
返品調整引当金繰入額	23	43
差引売上総利益	30,196	30,209
販売費及び一般管理費	24,936	24,858
営業利益	5,259	5,350
営業外収益		
受取利息	23	38
受取配当金	162	285
為替差益	183	13
持分法による投資利益	16	67
その他	47	43
営業外収益合計	433	448
営業外費用		
支払利息	193	152
その他	49	54
営業外費用合計	242	207
経常利益	5,450	5,591
特別利益		
投資有価証券売却益	-	693
貸倒引当金戻入額	28	-
特別利益合計	28	693
特別損失		
固定資産売却損	-	129
投資有価証券売却損	-	56
投資有価証券評価損	284	24
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	30
特別損失合計	284	241
税金等調整前四半期純利益	5,193	6,042
法人税等	2,085	2,444
少数株主損益調整前四半期純利益	-	3,598
少数株主利益又は少数株主損失()	8	7
四半期純利益	3,100	3,606

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,193	6,042
減価償却費	2,241	1,992
のれん償却額	667	105
貸倒引当金の増減額(は減少)	27	55
賞与引当金の増減額(は減少)	8	5
役員賞与引当金の増減額(は減少)	15	15
退職給付引当金の増減額(は減少)	84	84
返品調整引当金の増減額(は減少)	23	43
売上割戻引当金の増減額(は減少)	90	232
固定資産売却損益(は益)	-	129
投資有価証券売却損益(は益)	-	636
投資有価証券評価損益(は益)	284	24
受取利息及び受取配当金	185	323
支払利息	193	152
持分法による投資損益(は益)	16	67
売上債権の増減額(は増加)	1,372	2,491
たな卸資産の増減額(は増加)	2,303	2,830
仕入債務の増減額(は減少)	1,147	1,426
その他	2,504	1,608
小計	6,255	7,123
利息及び配当金の受取額	178	294
利息の支払額	193	152
法人税等の支払額	1,591	2,627
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,648	4,638
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	2,396	4,291
無形固定資産の取得による支出	295	159
投資有価証券の取得による支出	132	358
投資有価証券の売却による収入	-	1,154
短期貸付けによる支出	-	420
その他	39	17
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,786	4,092
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	109	1,271
長期借入れによる収入	304	-
長期借入金の返済による支出	602	572
配当金の支払額	823	823
その他	6	3
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,018	120
現金及び現金同等物に係る換算差額	117	233
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	961	191
現金及び現金同等物の期首残高	6,051	13,272
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,012	13,464

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	アイケア 関連 (百万円)	スキンケア 関連 (百万円)	内服関連 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	12,308	30,275	7,660	2,309	52,554		52,554
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高							
計	12,308	30,275	7,660	2,309	52,554		52,554
営業利益	3,387	2,858	478	12	6,736	(1,477)	5,259

(注) 1 事業区分の方法

事業区分は、製品の種類、用途(使用目的)、製造方法等の類似性に基づき区分しております。

2 各事業の主な製品

(1) アイケア関連 目薬、洗眼薬、コンタクトレンズ関連品

(2) スキンケア関連 メンソレータム、保湿鎮痒剤、リップクリーム、ハンドクリーム、ニキビ用
剤、日焼け止め、機能性化粧品

(3) 内服関連 胃腸薬、胃腸内服液、総合感冒薬、漢方薬、サプリメント

(4) その他 体外検査薬、花粉関連品、義歯関連品、衛生雑貨

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	アジア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	40,155	3,261	2,070	6,499	567	52,554		52,554
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	369	803	3	1,363	9	2,548	(2,548)	
計	40,525	4,064	2,073	7,862	576	55,103	(2,548)	52,554
営業利益 又は営業損失()	5,569	782	31	584	35	5,375	(115)	5,259

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

(1) 北米 米国・カナダ

(2) ヨーロッパ 英国

(3) アジア 中国・台湾・ベトナム

(4) その他 オーストラリア

【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	北米	ヨーロッパ	アジア	その他	計
海外売上高(百万円)	3,414	2,081	6,789	569	12,854
連結売上高(百万円)					52,554
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	6.5	4.0	12.9	1.1	24.5

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 北米 米国・カナダ

(2) ヨーロッパ 英国

(3) アジア 中国・台湾・ベトナム

(4) その他 オーストラリア

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間から「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成20年3月21日 企業会計基準適用指針第20号)を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、主にヘルス&ビューティケアの領域で生産・販売活動をしており、国内においては主に当社が担当し、海外においては、「アメリカ」を主にメンソレータム社が、「ヨーロッパ」を主にメンソレータム社・イギリスが、「アジア」をメンソレータム社・アジアパシフィック及びメンソレータム社・中国並びにその他の現地法人が、それぞれ担当しております。現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、取り扱う製品(サービス)について各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、生産・販売体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」「アメリカ」「ヨーロッパ」及び「アジア」の4つを報告セグメントとしております。各報告セグメントでは、アイケア関連(目薬等)、スキンケア関連(外皮用薬、リップクリーム、日焼け止め、機能性化粧品等)、内服・食品関連(胃腸薬、サプリメント等)及びその他(体外検査薬等)の製品(サービス)を生産・販売しております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)2	合計	調整額 (注)3	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)4
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	40,163	2,958	2,053	6,761	51,937	594	52,531		52,531
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	761	274		640	1,677		1,677	1,677	
計	40,925	3,232	2,053	7,401	53,614	594	54,208	1,677	52,531
セグメント利益 又は損失()	5,008	259	183	556	5,488	10	5,499	148	5,350

(注) 1 「アメリカ」の区分は米国、カナダ等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、南アフリカの現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、台湾、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。

3 セグメント利益又は損失()の調整額 148百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。

4 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。